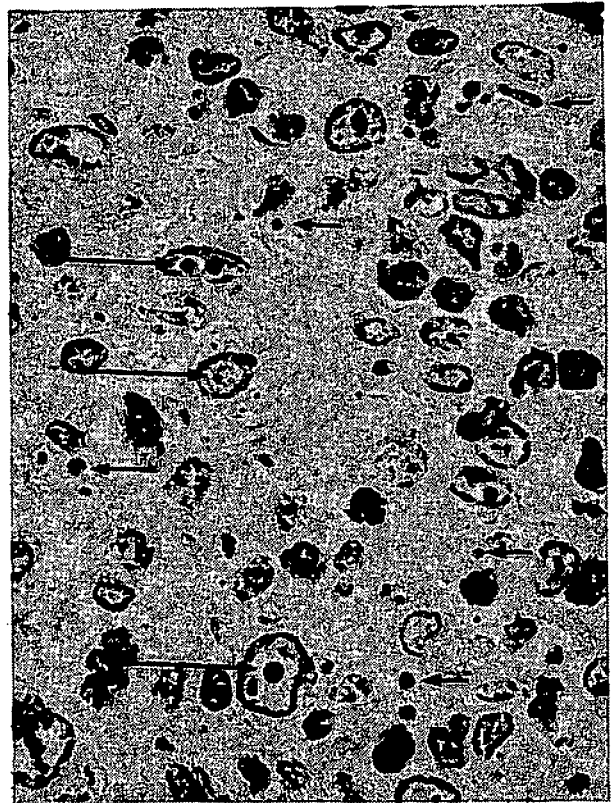


ミンクの実験的ジステンパーのリンパ節

日本生物科学研究所病理研究室出願

第10回獣医病理学研修会 標本No.143



ジステンパーウイルス(Hkミンク系)に感染発症したミンクのリンパ節および脾の等量混合乳剤を、バステル種、5カ月令のメス・ミンクに噴霧吸入ならびに鼻腔内滴下によって接種した。このミンクは接種8日後に元気消失、食飲減退および眼瞼の軽度の腫脹を呈し、10日後にはさらに鼻漏、軽度の下痢および鼻皮の軽度の腫脹を示した。11日後に至り、上記の症状が増悪し、瀕死状態となったので、心採血により致死させた。

部検所見:気道のカタル、肺の気腫、前腸間膜リンパ節の軽度の腫大、めやに、眼瞼の軽度の腫脹、鼻皮の軽度の肥厚、肛門部の腫脹突出、肛門周囲腺および肛門囊腺の著しい腫大。

提出した前腸間膜リンパ節では、皮質および髄質ともにリンパ球の減少によって、細胞密度が著しく疎となっている。周縁洞は全く空虚であるが、中間洞および髄洞には中等度に洞内皮細胞の腫大、円形化および剥離が見られる(左図、H&E、×100)。皮質小節および髄索には、なおかなり多数のリンパ球の残存を認めるが、それらの大部分は核濃縮の傾向を示している。皮質小節、特に2次小節部では、リンパ球の脱落著しく、それに代っ

て細胞質に富む限界不鮮明な細網細胞の出現が顕著である。

ジステンパーに特異的な封入体は皮髄両質の細網内皮系細胞およびリンパ系細胞の核(長い矢印)、細胞質(短い矢印)の両方に多数みられる(右図、H&E、×1000)。さらに、細胞質封入体は少数ではあるが、リンパ節の被膜、梁材およびリンパ節周囲の疎性結合織内の線維細胞ならびにそれらの部分に浸潤する単核円形細胞にも認められる。

反応性変化としては、前記の皮髄両質における細網細胞の腫大、円形化および剥離のほか、皮質に軽度の好酸球の浸潤を認める。細胞質および核内封入体の出現をジステンパーウイルス感染の指標とすれば、このウイルスが広い宿主細胞域をもつことがうかがわれる。また同時にリンパ節病変の成りたちが、ウイルスと宿主細胞の直接交渉によることを示す。病理組織学的診断はジステンパーリンパ腺炎ということになるが、本例においては血液性細胞の病変参加が極めて軽微であることを指摘する必要がある。